

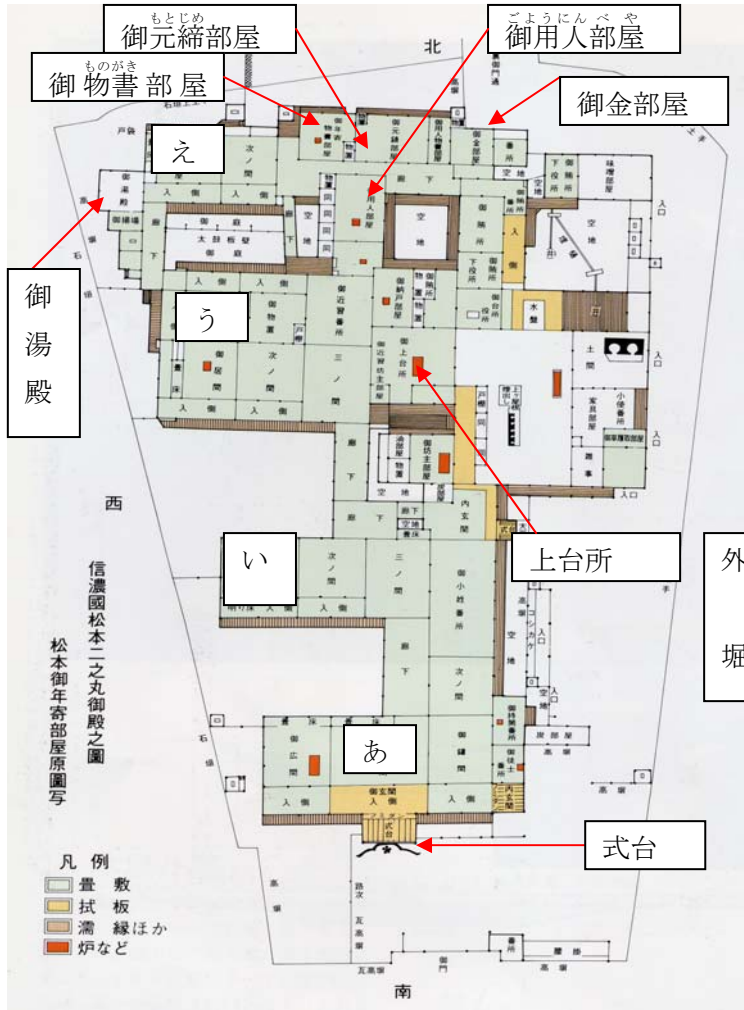
5 - 4 二の丸御殿跡・東北隅櫓跡

二の丸御殿は維新後、筑摩県庁として使われ明治9年焼失しました。その跡へ明治11年松本裁判所が建てられました。昭和52年裁判所の移転にともない、昭和54年10月より二の丸御殿跡の発掘調査と史跡公園整備事業を実施し、昭和60年3月終了しました。足かけ7年に及ぶ事業でした。

1 享保12年本丸御殿焼失にともない、本丸御殿の担っていた政庁機能が二の丸御殿に移されることになりました。それ以前の二の丸御殿は副政庁的な役割を負っていたと考えられています。この二の丸御殿を創建したのは現在、誰と考えられていますか。

- ①石川数正 ②石川康長 ③小笠原秀政 ④小笠原貞慶

2 政庁としての機能を持った二の丸御殿は建坪約2330㎡、5棟の建物からなり50の部屋を数えました。



左の二の丸御殿之図中のあ・い・う・えの部屋名はどれか下の番号を入れなさい。

- あ — ()
 い — ()
 う — ()
 え — ()

- ①玄関の間 ②御書院
 ③御寝間 ④御年寄部屋

※御書院とは城主が配下の者を引見したところ。

※御寝間は城主の寝所

※「年寄」は城代の下にあって藩の庶政を統括する役職。5・6人いた。

※「用人」は年寄の下にあり庶政に参与した。5人から12人いた。

※「元締」は会計担当

3 二の丸御殿跡は平面復元されていますが、二の丸御殿遺構は埋め戻され保護のために砂が被せられ、さらに盛土がされています。平均して二の丸御殿の遺構は現地表面より何cm下にあることになるでしょう。

- ① 20cm ② 30cm ③ 40cm ④ 50cm

4 井戸があった真上には井桁に組んだ木が置かれ井戸の位置を示しています。写真のように植え込みを刈り込んで、ある遺構の位置を示した箇所があります。その真下にあった遺構はなんでしょう。



- ① かまど ② 囲炉裏 ③ 雪隠 ④ 番所

5 二の丸御殿跡からは様々なものが出土しました。写真の小型土器はなんでしょう。コップ型の小型土器には「泉湊伊織」の刻印がありました。

(高さ7.5cm 口径7.6cm 器壁1.0cm

容積22cm³でやく6勺入り 蓋付)

- ① 焼塩壺 ② 海苔壺
③ 火薬壺 ④ 茶壺 (抹茶入れ)



6 絵図のように、二の丸御殿の東側と北側は土塁の上に塀がありました。所々、塀が曲がっています。このような土塀をなんと呼ぶでしょう。

- ① 折れ塀 ② 御土居
③ 油塀 ④ 長塀



7 右写真の赤矢印の所が東北隅櫓です。この絵図は「正徳二年頃信州松本城之図」ですが赤矢印の先に東北隅櫓の絵が貼られています。

この絵は東北隅櫓の正面と側面が一枚に描かれ寸法が記入されています。またこの絵図を手前に倒すと右写真の青矢印の様に隅櫓の底面があらわれます。このような絵を何というでしょう。

(この絵は薄い日本紙に描かれています)

- ① 切り図 ② 折れ絵 ③ 起し絵 ④ 天地絵

